

## 東京五輪・パラリンピック児童・生徒 81 万人「観戦計画」

東京五輪「開催」予定日まで 2 ヶ月を切ったが、東京などの緊急事態宣言は再々延長された。IOC のコーツ副会長は緊急事態宣言下でも大会を開催できると明言したが、日本の危機的な現実をどれだけ理解しているのか。バッハ会長は「誰もがいくらかの犠牲を払わないといけない」と述べたというが、こんな発言を日本政府は見過ごすのか。

今夏の東京五輪・パラリンピックは、次々と不可解なことが多すぎるが、東京の知人から聞いた話も耳を疑うものだった。教えてもらった AERA dot.5 月 22 日配信から、表題について途中まで紹介したい。

現時点で観客は入れる見込みで、学校の引率により、児童・生徒らも観戦予定だ。都教育委員会によると、“コロナ前”に策定された東京都内の公立小・中・高校などの生徒ら約 81 万人が観戦する計画については、「現時点で撤回する予定はない」といい、先日も教員らによる「集団下見」が実施されたばかり。保護者や教員からは不安の声が上がっている。

「新年度の保護者会で年間スケジュールが配布されたのですが、観戦行事がしれっと組み込まれていて、この状況なのに行くのかと驚きました。5 月末に予定されていた運動会は最近延期が決まったばかり。運動会は延期で五輪は変更がないのはちぐはぐだと思う」戸惑いを隠せないのは中野区の 50 代女性だ。年間スケジュールによると、小学 5 年の息子が 8 月上旬のパラリンピック競技を観戦する予定になっているという。

「こんな状況なら、やめたほうがいい。テレビでの観戦で十分」

各学校で予定されている観戦行事は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が児童・生徒らが大会を観戦するために低価格でチケットを用意する「学校連携プログラム」を活用したもの。都は観戦を希望する学校を募り、組織委が発行する「五輪連携観戦チケット」を必要な枚数分、購入する。都の教育委員会によると、同プログラムを活用した観戦の計画については、コロナ前の 18 年に都によって策定された。19 年 8 月時点で、都内の公立学校の約 81 万人の生徒が観戦する予定だった。

今年度予算として「学校連携観戦」の関連事業費に 41 億円を計上しており、この予算からチケット代が捻出される予定だ。しかし現在は、第 4 波が到来し、変異株が猛威を振るう状況。団体での観戦となると子どもたちへの感染リスクが心配だ。この「学校行事」は、全校生徒もしくは学年単位での活動が対象で、必然的に大人数での移動となる。保護者らが不安になるのも無理はない。小学 2 年の子どもの保護者の江戸川区の 30 代男性は、「中止が妥当だと思っていた。こんな状況で生徒を連れいくことが驚き」と話す。学校行事のスケジュールによると、娘が 8 月のパラリンピック競技を観戦予定だが、できれば参加させたくないという。「100 人単位の子どもの感染リスクから守りつつ連れていくには、無理があると思います」

(2021 年 5 月 29 日)